

2. 自己点検・自己評価及び学校関係者評価

4：達成 3：概ね達成 2：達成には不十分 1：達成していない

I 学校運営	
自己評価：3	学校関係者評価：4
<p>・組織目標と共に役割内容を提示し組織体系を意識した業務・連絡・報告を心がけた。中間評価、目標管理シートを用い、引き続き役割意識をもった業務姿勢を目指していききたい。また、学校運営上の事柄を教職員会議で共通認識しているが、更に前向きに改善策を検討する会議のあり方が課題である。現在の教員不足の補いと共に将来を見越した組織づくりを視野に入れていく必要がある。</p> <p>・教員不足・負担の軽減のために教務事務は、新カリキュラムでも必要性を述べられているので、教務と連携をして教員の一助となる業務遂行を可能にしていきたい。</p>	<p>・教育環境が厳しいなか、様々な点に改善を図っている。定期的にカリキュラム検討会議等を開催し、その中で教員の共通認識の向上を図るなど、昨年度に課題とされていた事項について改善を行っている。</p>
II 教育理念・教育目標・教育課程・教育活動	
自己評価：3	学校関係者評価：4
<p>・新カリキュラムの構築に伴い、入学時受け入れ方針、カリキュラム実施方針、卒業認定方針の3つの方針が明確になり教育内容が整った。また、学生が効果的に学んでいける学則、細則の見直しも行った。3方針に基づいた、教育内容・方法等の検討は継続的に積み重ねていかなければならない。</p> <p>・教育理念・教育目標は学生にとっての指針となるように明示をしているが、常に教員は学生観と教育内容の見直しは必須である。また、実習が実施できる機会が大変貴重になっている現状において、効果的な学びの場となるよう病棟と教員の働きかけを更に意識していく事が必要と考える。</p> <p>・今年度の入学生44名に対して、学習に影響が出ないように学習環境を調整して対応したが、定員が厳守でき看護師として成長できる入学選考を慎重にしていく必要がある。また、退学者5名、原級留置者6名と学習が滞る学生が増えた。この現状を分析し、学生の学びが成長していける履修方法の見直しを行った。多様化する学生の学習環境・意欲・学力等を把握し、教員は常に学生観の見直しと教育の検討をしていく必要がある。</p> <p>・授業アンケートは、学生の負担になっているためか、効果的に活用ができていない。来年度から科目ごとの実施にし、評価が活用できるようにしていく。</p> <p>・感染状況を鑑みて、遠隔授業の取り入れは、学校・学生もスムーズになり対応ができています。この学びを更にICT教育に繋げていける検討が必要である。</p> <p>・授業研究の時間がとれない現状は、多岐に渡る業務と教育の性質上改善されにくいのが、限られた時間と業務をマネジメントできる力の育成も必要である。</p>	<p>・教員全員が真剣に議論しながらカリキュラム改正を進めている。</p> <p>・新型コロナウイルスにより通常の教育が困難な状況下で、遠隔授業を適格に行い、教育効果をあげている。</p> <p>・退学者等については、学生の多様化が進むなか、学生一人一人を状況を適格に分析し、次に繋げて行く努力が大切である。</p>
III 入学・卒業・就職	
自己評価：3	学校関係者評価：4
<p>・18歳人口の減少、大学志向の増加など、入学希望者の確保には危機感をもって取り組んでいる。入学生の推移を分析し、入学試験科目・方法・内容・面接試験評価等を変更し、入学時受け入れ方針に即した入学試験・公平な選考を意識した。</p> <p>・学生募集は、受験状況に応じた学校を選定をし、入学後の様子を説明している。また、オープンスクールは、感染対策の基で動画配信・ホームページ等の活用（視聴率3%up）を取り入れて対応している。</p> <p>・看護師国家試験の合格率は継続して100%であり、卒業時の教育水準は維持できている。また、国家試験対策は1年次から計画的に実施しているが、各学年から全体へ効果的な方法の共通認識と評価を常に取り入れていきたい。また、専門職業人としての人間性が成長していける関わりを意識していきたい。</p> <p>・卒業生から在校生への就職説明会は、効果的であったので今後も継続して計画していきたい。また、卒業生の訪問に対しては、看護職を活かして働き続けられるように丁寧に対応している。</p>	<p>・受験生の減少は、18歳人口の減少等から致し方ない面がある。入試科目等の見直しや動画を活用したオープンスクール、きめ細かい国家試験対策や就職指導等の様々な取り組みを行っている。</p>

IV 学生生活支援	
自己評価：4	学校関係者評価：4
<ul style="list-style-type: none"> ・済生会の奨学金とともに、国からの経済支援に対しては、公正性を保ち学生へアナウンスをして支援できた。また、学生寮は入居者が若干増え、学びの環境を整えることに努めた。 ・精神面の支援は、年2回の定期面接に加え、ストレスチェック実施している。ストレス度の高い学生もいるが、校内でのカウンセリングの活用希望者は少ない。学生は、外部のクリニックも利用し自己対処ができていますが、学生の変化を捉えて支援していく必要がある。 ・禁煙教育を来年度から入学時等に実施し、健康意識を高めていく予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が相談しやすい環境を整えるため努力をしている。日頃から教員と学生との相談ができています。
V 経営・管理・財政	
自己評価：3	学校関係者評価：4
<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算内で教育機関としての優先順位を意識した執行に努めた。 ・個人情報保護規定と学生便覧に記載されている保護要綱の一貫性と内容が不明な点が明らかになり、運用可能なものに改正した。 ・防災マニュアルの見直しと防災設備の整備し、機材の取り扱いが職員間で共通認識ができた。また、下層階の施設と合同の防災訓練を実施していく予定である。 	<p>財政環境が厳しいなか、病院等の理解を得て、ICT教育への対応等の教育課題や設備の改修等、様々な課題に積極的に対応している。</p>
VI 教育環境	
自己評価：3	学校関係者評価：4
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化に対する整備と新カリキュラムに向けてのICT化の準備を優先的に進め、学生数に応じたパソコンが整備できた。来年度から電子書籍を用いて授業を進めていく事も含め、教員が効果的に活用できる努力が必要と考える。更に、新カリキュラム対応と感染対策対応を含めた環境整備が計画的に必要である。来年度はwifi整備とトイレの改修工事を計画している。既存の施設を最大限に活かし魅力ある学校整備を努力していきたい。 ・新たに図書管理システムを導入し、蔵書の古い本の廃棄や図書装備とともに、学生が活用・検索しやすいように進めている。また、十分に学習対応ができる図書選定、豊かな人間性を育むことも意識した蔵書の整備も必要と考える。 	<p>学生用のパソコンの整備（充実）やICT教育への対応、昨年課題とされた図書の利活用改善のための図書システムの導入、またトイレ改修等、学生の学習環境の向上に努めている。</p>
VII 教職員の育成	
自己評価：3	学校関係者評価：4
<ul style="list-style-type: none"> ・経験の浅い教員の授業参観から進めており、授業内容・方法の共有が図れた。経験豊かな教員の授業参観も取り入れ、組織的に学び合う風土が必要である。また、教員の研究内容が発表できるまで引き上げる取り組むが課題である。 ・コロナの影響を受け研修機会が減っているため、遠隔も含めた研修が積極的に参加ができるよう調整を図っていきたい。また、研修の伝達講習等を活かした各教員の自己研鑽も課題である。 ・教務主任研修と教員養成講習会に2名の教員を参加させた。この学びを教育の質向上と教員としての意欲向上に繋げられるように関わっていきたい。 	<p>人員が厳しいなか、2名の教員を、「教務主任養成講習会」、「専任教員養成講習会」に参加させるなど、積極的に教職員の養成に取り組んだ。</p>
VIII 広報・地域との連携	
自己評価：3	学校関係者評価：4
<ul style="list-style-type: none"> ・動画を取り入れ、ホームページの発信に努めた。更に学生の学びの様子が地域・高校生・父兄等にも理解でき、関心をもってもらうように頻度を上げていく必要がある。 ・新カリキュラムの中に地域の生活の理解を強化してしていく予定である。学びとともに感染状況と合わせながら、地域への関わりも広げていきたい。 ・遠隔を用いてカンボジアで働く看護職との交流の機会を得た。国際的な広い視野で思考・交流できるように、今後も継続して取り入れていきたい。 	<p>ホームページでの動画配信など、積極的に広報に対応している。今後は、インスタグラム等の活用など、広報手法の多様化等も検討して欲しい、</p>

学校関係者評価委員

委員長：深澤淑子（元島田市立看護専門学校 副校長） 委員：小早川裕生（卒業生）

委員：桜井 郁子（静岡県看護協会 常務理事） 委員：大上 規美子（静岡済生会総合病院 教育担当）